

ドイツ語 (初級B) / A ドイツ語 第19回 過去形、未来形、現在完了

* 授業の進み方は教科書の順序とやや異なる。シラバスも参照。

範囲: 教科書第12課 A, B (S. 47-50)

《今回の基本例文》

59. Warum antwortete er nicht auf meine Frage? (CD60-1)
なぜ彼は私の問いに答えなかったのですか?
[過去形の人称変化、過去基本形 (弱変化)、(特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語)]
60. Ich dachte oft an meine Freundin. (CD60-4)
私はよくガールフレンドのことを考えていた。
[過去形の人称変化、過去基本形 (混合変化)、(特定の前置詞と結ぶ動詞による熟語)]
61. Warst du mit seiner Arbeit zufrieden? (CD60-5)
君は彼の仕事ぶりに満足していたの?
[過去形の人称変化、sein の過去基本形、(特定の前置詞と結ぶ形容詞による熟語)]
62. Sie wurde Ärztin. (CD60-2)
彼女は (女性) 医師になった。
[過去形の人称変化、werden の過去基本形]
63. Das Konzert fing um acht Uhr an. (CD60-3)
そのコンサートは8時にはじまった。
[過去形の人称変化、過去基本形 (強変化)、過去基本形 (分離動詞)、(時刻)]
64. Die Kinder durften abends nicht ins Kino gehen. (CD61-3)
子供は夜に映画館に行ってはならなかった。
[過去形の人称変化、過去基本形 (話法の助動詞)]
65. Er wird heute krank sein. (CD62-2)
今日、彼は体調が悪いのだろう。
[未来形]
66. Gestern hat es geregnet, und ich bin den ganzen Tag zu Haus geblieben. (CD63-5)
昨日は雨だったので、私は一日じゅう家にいた。
[現在完了 (haben 支配)、形式主語の es (自然現象)、副詞的 4 格]
67. Wann hat die Sitzung angefangen? (CD63-2)
会議がはじまったのはいつですか?
[現在完了 (haben 支配)、過去分詞 (分離動詞)]
68. Sind Sie früher schon einmal in Italien gewesen? (CD63-1)
あなたは以前に一度、イタリアにいらしたことがありますか?
[現在完了 (sein 支配)]

I 過去形・未来形

A. 過去形・未来形 (S. 47)

1 2 動詞の過去人称変化

◇ ドイツ語の過去形は主に文章で使用するものであり、口頭では現在完了形で代用する（後述）。

◇ ドイツ語の**過去形**も、現在形と同じく人称変化を行う。教科書第11章で学んだ**過去基本形**に以下の**変化語尾**を加えればよい。

人称	語尾
ich	なし
du	-st
er/sie/es	なし
wir	-(e)n
ihr	-t
sie	-(e)n

* つまり、過去基本形は1人称過去および3人称過去と同じかたちとなる。

◇ 過去基本形が-s, -ß, -sch, -z で終わるもの（教科書 S. 9 の **reisen** 型）は、2人称単数で語調を整えるための e を挿入し、du **lasest** (lesen – las - gelesen) のようなかたちになる。

* 現在人称変化の場合、語幹が-s, -ß, -sch, -z で終わるものは、du **reist**, er **reist** (reisen) や du **sitzt**, er **sitzt** (sitzen) となって e が入らなかった。一方、過去形の場合は e が入ることに注意。（⇒教科書 S. 9）

◇ 過去形の文をつくるには、過去人称変化を用いればよい。

Was machen Sie?

あなたはなにをしていますか。（現在形）

→ Was **machten** Sie?

あなたはなにをしていましたか。（過去形）

Er trinkt abends Bier.

彼は晩にビールを飲む。（現在形）

→ Er **trank** abends Bier.

彼は晩にビールを飲んだ。（過去形）

◇ 分離動詞を用いた文の過去形は、定動詞第2位に基礎動詞の過去人称変化を、文末に前綴りを置く（枠構造）。つまり、語順は分離動詞を用いた文の現在形と同じ。

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	基礎動詞（過去人称変化）	…	前綴り

例えば、

Du **brachtest** eine Flasche Wein **mit**.

君はワインを1ビン持ってきた。

3 話法の助動詞の過去人称変化 (S. 48)

◇ 話法の助動詞の3基本形は、不規則変化のうち、教科書第11課Aで学習した分類における**混合変化**に近い。(⇒授業第18回「不規則変化動詞のまとめ」S. 4)

* ただし、過去分詞が2種類ある。巻末の不規則動詞変化表を見ると、dürfen – durfte – gedurft / dürfen のように、話法の助動詞には必ず2種類の過去分詞が記載されている。完了形をつくる時、本動詞として使用する場合には **ge-**がつく方を、話法の助動詞として使用する場合には **ge-**がつかない方(不定詞と同じ方)を用いる。本配付資料S. 8の**参考**も参照。

◇ 話法の助動詞の過去人称変化の語尾は、一般の動詞のものと同じ。

◇ 話法の助動詞を用いた文の過去形は、定動詞第2位に話法の助動詞の過去人称変化を、文末に不定詞を置く(枠構造)。つまり、語順は話法の助動詞を用いた文の現在形と同じ。

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	話法の助動詞(過去人称変化)	…	不定詞

例えば、

Ich konnte das nicht sagen.

私はそれを言うことができなかった。

4 未来形

werden → 第2位(定動詞の位置)

不定詞 → 文末

◇ ドイツ語の**未来形**は、**werden + 不定詞**によってつくる。その際、定動詞第2位に werden の現在人称変化を。文末に不定詞を置く(枠構造)。話法の助動詞と同じパターンと考えればよい。

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	werden の現在人称変化形	…	不定詞

例えば、

Was werden Sie machen?

あなたはなにをやるつもりですか。

Er wird abends Bier trinken.

彼は晩にビールを飲むだろう。

◇ ドイツ語では**単純未来**(単なる予定など)は現在形で表すのが普通で、**推量**(~するだろう)や**意志**(~するつもりである)のようなニュアンスが加わった**意志未来**にのみ未来形を用いる。語順のみならず、その点でも **wollen** や **mögen** といった話法の助動詞を用いた文に近い。

* 英語にも単純未来と意志未来の区別は存在し、*will* は両方に、*shall* や *be going to* は後者に用いる。

Peter kommt bald.

ペーターはすぐに来る。(単なる予定 = 単純未来)

Peter wird bald kommen.

ペーターはすぐに来るだろう。(推量 = 意志未来)

* つまり、2番目の文には話し手の推量が含まれている。

II 現在完了

B. 現在完了・過去完了ほか (S. 49)

1 現在完了

haben / sein → 第2位 (定動詞の位置)

過去分詞 → 文末

◇ ドイツ語の現在完了は、**haben + 過去分詞**もしくは**sein + 過去分詞**。

* 英語の現在完了形が *have* + 過去分詞だけであるのとは異なるのに注意。

◇ その際、定動詞第2位に haben か sein の現在人称変化を、文末に過去分詞を置く (枠構造)。

* つまり、語法の助動詞や未来形と語順は同じで、不定詞が過去分詞に代わる点だけが異なる。

第1位	第2位	第3位以下	文末
...	haben の現在人称変化形 sein の現在人称変化形	...	過去分詞

◇ 現在完了をつくる時、

- haben を用いる動詞: **haben 支配**
- sein を用いる動詞: **sein 支配**

haben 支配か sein 支配かについての公式は、以下の通り。

場所の移動、状態の変化などを表す **自動詞: sein 支配**

それ以外: **haben 支配**

- つまり、**他動詞**はすべて haben 支配。移動や状態変化に関わらない自動詞もほぼ haben 支配。

具体的には、以下の動詞は sein 支配。

- **場所の移動**: gehen, kommen, fahren, ein|steigen, usw.
- **状態の変化**: werden, sterben, ein|schlafen, wachsen, usw.
- それ以外: **sein**, bleiben, begegnen, gelingen, geschehen, usw.

sein が sein 支配なのは見落としがちなので要注意。

* sterben (死ぬ) は生から死への状態変化、ein|schlafen (寝入る) は覚醒から睡眠への変化と考える。一方、schlafen (眠る) は単なる動作であって状態変化ではないので haben 支配。

** なお、同じ動詞でも、意味によって haben 支配/sein 支配が異なるものも存在する。例えば、schwimmen は、単に「水泳する」場合は haben 支配、「ある場所まで泳いで行く」場合は sein 支配となる。

Er hat jeden Tag geschwommen. 彼は毎日水泳した。

Er ist über den Fluss geschwommen. 彼は泳いで川を渡った。

ほか、fliegen (飛ぶ/飛行機で移動する)、reiten (乗馬する/馬で移動する) など。

*** usw. は und so weiter の略で「などなど」の意味。英語の *etc.* や *and so on* に相当。

◇ その動詞が **haben 支配**か **sein 支配**かについては、辞書で確認することもできる。**haben 支配**の場合は **(h)**、**sein 支配**の場合は **(s)** と書かれているのが通例。

* 意味や方言によって異なる場合もあるが、そのときは注記がついている。

◇ 各種の現在完了の例。

Was hast du am Wochenende gemacht?

君は週末になにをしたの。(haben 支配の例)

Er ist schon nach Haus gegangen.

彼はもう帰宅した。(sein 支配の例)

* nach Haus は「家に向かって (=移動の目的地が家)」。家で (=単なる位置) は zu Haus。

Wir sind jung gewesen.

私たちは若かった。(sein は sein 支配)

← Wir sind jung.

私たちは若い。

Du hast eine Flasche Wein mitgebracht. (分離動詞の場合)

君はワインを1ビン持ってきた。

← Du bringst eine Flasche Wein mit.

君はワインを1ビン持ってくる。

* 分離動詞を用いた文の現在完了も、考え方は同じ。定動詞第2位に haben か sein の現在人称変化を、文末に第11課で学んだ分離動詞の過去分詞 (内部に ge-が入るもの) を持ってくる。

補足 現在完了の用法

ドイツ語の現在完了 ≒ 過去時制

◇ 現在の立場からの、過去の完了した事実の報告:

これについては、実態としてはほぼ過去形との区別が失われている。前述のように、ドイツ語の過去形は主に文章で使用するものであり、口頭では現在完了形で代用することが多い (ただし、war、hatte、話法の助動詞の過去形などについては、口頭でもよく用いる)。このため、英語と異なって、**gestern** (昨日) など特定の過去を表す副詞を一緒に使ってもよい。

* 英語でいう完了用法および結果用法に相当。

** 周知の通り、英語の場合、yesterday のような特定の過去を表す副詞は現代完了と併用できない。

Ich bin gestern nach München gafahren.

私は昨日、ミュンヘンに行った。

◇ 過去の事実をまとめて言う:

「いままで~したことがある」という経験の意味になる。

* 英語でいう経験用法に相当。

Sind Sie einmal geflogen?

飛行機に乗ったことがありますか?

Ich habe nie mit ihm gesprachen.

彼とは一度も話したことがない。

* この用法の場合、einmal (一度、once) や nie (一度も~ない、never) などの副詞が使われることが多い。

◇ なお、英語の現在完了形の用法は完了、結果、経験、継続の4種類で説明されるが、このうち継続については、ドイツ語では現在形を用いる。（⇒教科書S.22）

英語		ドイツ語
現在形		現在形
現在進行形		
現在完了形	継続	
	完了、結果、経験	現在完了形（／過去形）
過去形		
過去進行形		
未来形		現在形（／未来形）

つまり、過去は現在完了で、単純未来は現在で表してよいので、日常的なドイツ語は現在と現在完了だけマスターすれば事足りてしまう（もちろん、正式な文章語ではその限りではなく、過去形、未来形、過去完了なども使い分ける）。

補足練習問題

次の現在形の文を、現在完了に直せ。なお、()内は使われている動詞の不定詞、下は元の文の和訳である。

- Ich tanze die ganze Nacht mit ihr. (tanzen)
私は一晩中、彼女と踊る。
- Er schreibt heute eine Hausarbeit. (schreiben)
彼は今日、レポートを書く。
- Er fährt heute nach Berlin. (fahren)
彼は今日、ベルリンに行く。
- Mozart stirbt jung. (sterben)
モーツァルトは若くして死ぬ。
- Wir bleiben drei Wochen in Hamburg. (bleiben)
私たちは3週間、ハンブルクにとどまる。
- Sie spielt oft Klavier. (spielen)
彼女はよくピアノを弾く。
- Am Sonntag kommt meine Freundin zu mir. (kommen)
日曜日、私の女友達が私のところに来る。
- Wie lange schläfst du? (schlafen)
君は何時間眠るの？
- Sie steht gegen 6 Uhr auf. (auf|stehen)
彼女は6時ごろに起きる。
- Der ICE fährt um 7.30 ab. (ab|fahren)
そのICEは7時30分に出発する。

参考 過去完了・未来完了 (2 3)

◇ 教科書には過去完了と未来完了も掲載されているが (ただし練習問題はなし)、必ずしも初学者向きの事項ではないため、これらをいま覚える必要はない。期末試験でも出題範囲外とする。以下、概略のみ一通り説明しておく。

◇ **過去完了**は、

- ・ **haben の過去人称変化+過去分詞**もしくは **sein の過去人称変化+過去分詞**。haben と sein の区別、および語順は現在完了と同じ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
...	hatte の (過去) 人称変化形 war の (過去) 人称変化形	...	過去分詞

- ・ 過去完了は、過去のある時点を基準にそれ以前の出来事を述べるもの (英語と同じ)。このため、過去のある時点を示す副詞や副詞節と一緒に用いることが多い。



Ich hatte schon zwei Stunden auf ihn gewartet, als er kam.

彼が来たとき、私はすでに 2 時間も彼を待っていた。

- * 副文 als er kam (彼が来たとき) が基準点になって、それより過去について述べている。

Der Arzt kam zu spät, der Kranke war schon gestorben.

医者が来たのが遅すぎて、病人はすでに死んでいた。

- * 文の前半 Der Arzt kam zu spät が基準点となって、文の後半でそれより過去について述べている。

- ** この zu は「～すぎる」、英語の too に相当。

◇ **未来完了**は、

- ・ **werden の現在人称変化+過去分詞 haben / sein**。haben 支配 / sein 支配の別は現在完了と同じ。
- ・ 「過去分詞 haben / sein」を**完了不定詞**と呼ぶ。

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
...	werden の現在人称変化形	...	過去分詞 haben 過去分詞 sein

- ・ 未来完了は、本来的には、未来のある時点を基準にその時点で完了している (はずの) 出来事を述べるもの (英語と同じ) で、未来のある時点を示す副詞や副詞句と一緒に用いることが多い。ただし、動詞要素が 3 つ (過去分詞、haben/sein、werden) も登場して煩瑣であるため、現代ドイツ語では現在完了で代用されることが多い。



- ・ 一方、完了したことがらについての推量を表す場合もあり、このときは未来に関する副詞 (句) は不要。

In zwei Stunden werde ich die Übersetzung sicher schon geschafft haben.

2時間以内に私はその翻訳をきつともうやり終えているだろう。

* in zwei Stunden（2時間以内に）ということで、2時間後を基準点として、現在からその時点までに完了しているはずの出来事を述べている。

= In zwei Stunden habe ich die Übersetzung sicher schon geschafft.

* 上記の文を現在完了で代用したもの。

Er wird das Haus schon vorgestern verlassen werden.

彼はすでに一昨日、家を出たことであろう。

* 単なる完了した（と話し手が思っている）ことがらを推量するタイプの用法。この場合、未来とは無関係なので、未来のある時点を示す表現も存在しない。

参考 話法の助動詞の完了形

◇ 教科書には記載がない話法の助動詞の完了形についての補足。これらについても、いま覚える必要はなく、試験でも出題範囲外。以下、やはり概略のみ一通り説明しておく。

◇ 話法の助動詞の変化表を見ると、過去分詞が dürfen - durfte - gedurft / dürfen のように、必ず2種類の過去分詞が記載されている（授業第18回「不規則変化動詞のまとめ」でも触れた）。現在完了や過去完了をつくる場合、

- ・本動詞として使うとき：ge-がつく方の過去分詞
- ・助動詞として使うとき：ge-がつかない方の（=不定詞と同形の）過去分詞

を、それぞれ用いる。

Er hat Deutsch gekonnt.

彼はドイツ語ができた。

Er hat Deutsch sprechen können.

彼はドイツ語を話すことができた。

◇ 話法の助動詞はすべて haben 支配である。

◇ 図式化すれば、

第1位	第2位	第3位以下	文末
…	haben の現在人称変化形	…	不定詞 話法の助動詞の過去分詞

◇ 話法の助動詞を用いた文の完了形は、未来完了と同じく動詞要素が3つ（不定詞、話法の助動詞の過去分詞、haben）も登場して煩瑣である。このため、話法の助動詞の過去時制には、口頭でも現在完了ではなく過去形を使うことが多い。（⇒教科書 S. 49）

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>